

こだま Q&A



Q13

ノロウイルス検査において、「イムノクロマト法」と「PCR法」での感度の違いを教えてください。

A13

PCR法は、遺伝子の一部を増幅して検出するため非常に感度が高く、検体1g中に10～100のノロウイルス量が最小検出感度となります。

一方**イムノクロマト法**は、蛋白の一部をそのまま抗原として検出しますので、検体1g中に 10^4 ～ 10^6 のノロウイルス量が最小検出感度となります。

このことから、PCR法の検出感度を100%としたときのイムノクロマト法の検出感度は70%前後となります。

この感度の違いから、イムノクロマト法では有症者の便は十分検出できませんが、ノロウイルス量が少ないと思われる便検体（無症状者の便、感染者の経過観察）には不向きと思われ、この場合はPCR法が一般的に推奨されています。

お問合せ：代表 0120-14-7191(フリーダイヤル) / 082-247-7191(ダイヤルイン)

ぎやっつとボール

新年おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお祈りします。

昨年の暮れに発表された「今年（平成23年）の漢字」は「絆」でした。東日本大震災が大きな要因だと思いますが、家族や仲間の繋がりの大切さをあらためて知ったということでしょう。上位にあった「災」や「震」を抑えて「絆」という文字が選ばれたことに、日本人の心というか文化を感じました。新しい年が、人と人の繋がりを大切にすらしに溢れた社会となるよう願っています。

当検査センターでは、ここ数年取り組んでいる予実績管理の手法やリスクマネジメント活動をさらにグレードアップして、会員の先生方により信頼いただけるよう努めていきます。

曾我部 俊二（医師会事務局長 兼 検査センター事務部長）

広報委員

曾我部 俊二 / 濱川 以行 / 熊川 良則 / 河本 圓 / 藤岡 裕子 / 初岡 博 / 中本 啓太

